



新学習指導要領のポイント

①社会に開かれた教育課程

よりよい教育課程を通じてよりよい社会を作るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容を明確にしながら、社会との連携・協働によってそのような学校教育の実現を図ることを目指すものをいいます。(前文：P. 15)

今回から新たに「前文」を設け、新学習指導要領等を定めるに当たっての考え方を示しています。是非ご一読ください。

②育成を目指す資質・能力

育成を目指す資質・能力を明確化し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間力等」の三つの柱に整理しました。また、全ての教科等の目標及び内容についても、この三つの柱に基づいて再整理しました。(総則第 1-3：P. 18)

③カリキュラム・マネジメント

子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育課程の質の向上を図っていくことです。(総則第 1-4：P. 18)

④「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、子供たちの「学び」そのものが、「アクティブ」で意味あるものとなっているかという視点から授業をよりよくしていくことです。(総則第 3-1：P. 22～P. 23)



各ポイントは裏面イラスト①～④と対応しています。

「生きる力」を育むために

子供たちの学びはどう進化するの？

④

主体的・対話的で深い学び

(アクティブ・ラーニング)

の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。



一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業に

見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に



周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に

自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業に

③

カリキュラム・マネジメント

を確立して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。



学校教育の効果を常に検証して改善する



教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる



地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

②

学んだことを人生や社会に生かそうとする

学びに向かう力、人間性など



実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能

未知の状況にも対応できる

思考力、判断力、表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、**三つの力をバランスよく**育みます。

①

上記②～④など、新学習指導要領で重要となる、すべての事項の基盤となる考え方である

「社会に開かれた教育課程」の実現



文科省公式サイト「生きる力」

◆ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の好事例については以下を御覧ください◆

※ (独) 教職員支援機構提供



アクティブ・ラーニング授業実践事例 (200事例)

(<https://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/jirei/>)



【動画】オンライン講座で学ぶ校内研修シリーズ

(<https://www.nits.go.jp/materials/intramural/>)

20分程度の動画です。